



障団連主催

北橋市長と意見交換会 開催される

副理事長 岡 俊一

四月二十八日(土) ウェルとばた六階会議室で、北橋北九州市長と北九州市障害福祉団体連絡協議会(以下障団連)との意見交換会が開催されました。

障団連三十六団体のうち二十七団体の代表が出席し、北九州市腎友会の副会長として私が出席しました。

テーマの一つは「さわやか」

が現在直面している、地域生活支援事業についてでした。各団体に意見を述べる時間を取っていただいていたので、「透析患者は今後ますます高齢化が進み、また透析治療の長期化により通院に支障のする患者の増加が考えられる。『さわやか』の安定した運営体制を続けていくために、地域生活支



援事業のなかの移動サービス事業所として認めていただきたい」旨を述べさせていただきました。

またこの日は、以前に障団連より提出していた要望書に対する回答書が配られました。その中には「小規模共同作業所は障害者の日中活動の場として重要であると考え、地域活動支援事

小倉事業所でお待ちしています



皆さんこんにちは。
 副理事長の岡俊一です。
 「さわやか」でボランティアを始めて

七年になります。
 このたび小倉事業所で、ほんの少しばかりお手伝いをするこ
 とになりました。火曜日と木曜

業に移行しない場合でも運営の支援を続けていく」との回答がありました。懇談会の中でも北橋市長は小規

模共同作業所の必要性を話されてきました。
 緊張の中にも和やかな雰囲気
 困気で懇談会は進み、北橋

市長より、障団連との意見交換会を年二回行いたいとの提案があり終了となりました。

障害者自立支援法に基づき、

平成二十四年三月までに小規模共同作業所は地域活動支援事業への移行が義務づけられました。安定した運営のため必要な助成金を受けるには、移行することが必須で、それにはいくつかの要件をすべて満たすものでなければなりません。その中で、

一日当たりの実利用人員

地域活動支援事業への移行

(透析患者のボランティア)が十名以上であること。
 (現在は五名以上)というのが「さわやか」にとって厳しい条件になっています。
 意見交換会の記事にもありますように、今後の送迎事業を考えると、地域活動支援事業への移行は欠かせないと考え、ことあることに北九州市へお願いしています。

お知らせ

第28回

ボランティア研修交流会

日時 平成一九年六月十日(日)
 場所 福岡県立 北九州勤労青少年文化センター(北九州パレス)第二研修室
 十時~十五時

午前部 講演 **これからの到津の森公園**

講師 到津の森公園 園長 岩野俊郎氏

午後部 懇談会

「さわやかな今年度の活動について」



光化学スモッグにご用心

北九州市では十年ぶりに
光化学スモッグが発生しました

● 光化学スモッグ発生のしくみ

自動車の排気ガスや工場のばい煙などに含まれている窒素酸化物や炭化水素などは、太陽からの紫外線を受けて複雑な光化学反応を起こし、光化学オキシダント（酸化性物質）を発生させます。この光化学オキシダントがある濃度以上になると、息苦しくなったり、目がチカチカしたり、また、植物にも被害が出たりします。これが光化学スモッグといわれているものです。

● 発生しやすい時期と気象条件

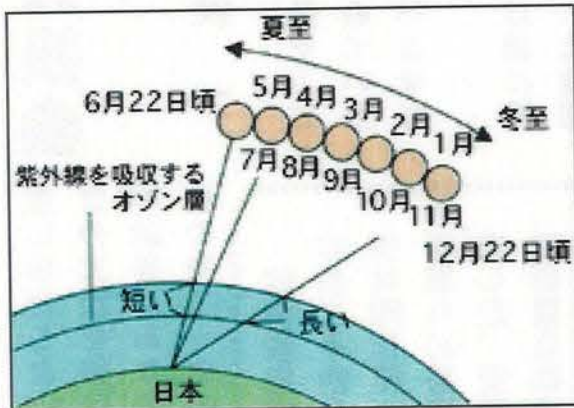
光化学スモッグは、5月から9月までの晴れて陽射しが強く、気温が高く（日中の最高気温24℃以上）、風の弱い日に発生しやすくなります。とくに、遠くの山や建物が「霧（もや）」がかかったようになって見えにくい日は十分注意しましょう。

● 目やのどが痛くなったら

次のような症状を感じたら

- ・ 目がチカチカしたり、痛い時は洗眼しましょう。
- ・ のどの痛みを感じたら、うがいをしてください。
- ・ 次のようなときはすぐ医者の診察を受けましょう。
- ・ 洗眼やうがいをしてもよくなりません。
- ・ 呼吸困難やけいれんがあるとき。
- ・ 意識障害があるとき。

被害を受けた方は、市町村役場または保健所に連絡を。

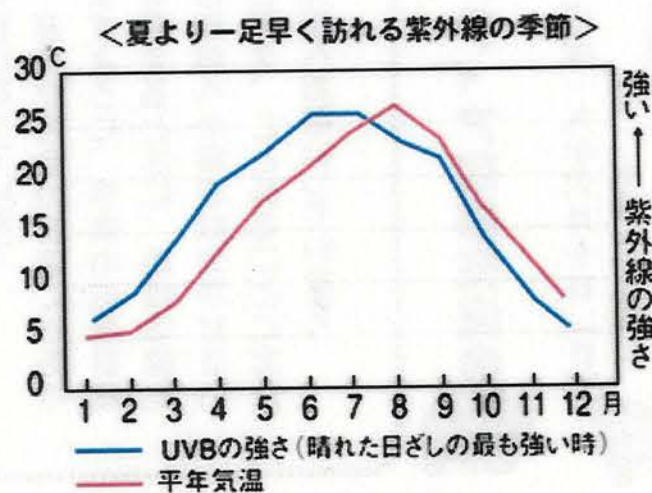
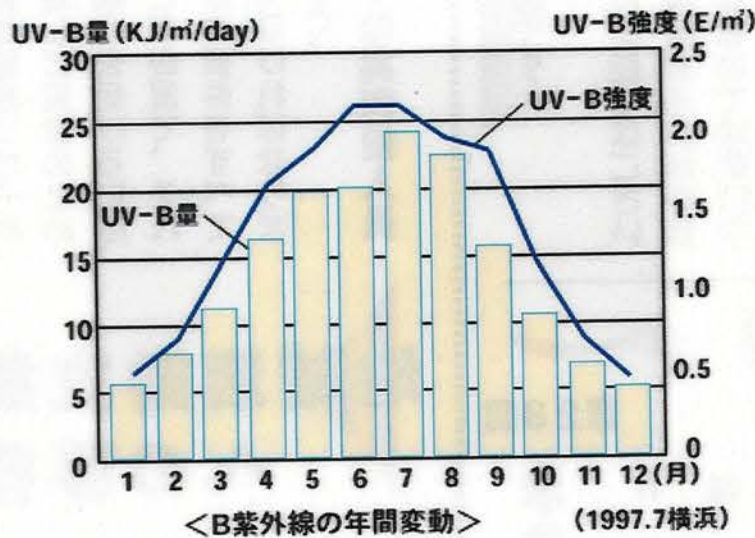


**紫外線にも
ご用心!**

● 予報・注意報などが発令されたら

- 被害にあわないために
- ・ 屋外などでの激しい運動は避けましょう。
 - ・ 目などに刺激を感じたら、すぐ家に入りましょう。
 - ・ 病弱な人、乳児、お年寄りなどは、健康な成人よりも被害を受けやすいので注意しましょう。

(インターネットより引用)



※1日のうちでも午前10時～午後2時が紫外線のピーク

日本において太陽がもっとも高くなる夏至のお昼前後は、太陽光線が大気層を通る距離が短く、オゾン層での紫外線の吸収が少なくなるため、強い紫外線が地上に降り注ぎます。

一方、太陽高度がもっとも低い冬至のころは、光線が大気層を通る距離が長くなるので、紫外線が弱まるのです。

地上に届く紫外線の強さは、地球から太陽までの距離ではなく、太陽光線が通る大気層の厚さによって決まります。